

# 北九州高速鉄道株式会社

## I 法人の概要 (平成24年4月1日現在)

### 1 所在地

北九州市小倉南区企救丘二丁目13番1号

### 2 設立年月日

昭和51年7月31日

### 3 代表者

代表取締役社長 岩科 健一

### 4 資本金

3,000,000千円

### 5 北九州市の出資金

3,000,000千円 (出資の割合 100.0%)

### 6 役職員数

- ・ 役員数 6人
  - うち常勤 2人 (うち北九州市からの派遣職員 0人)
  - うち非常勤 4人
- ・ 職員数 133人 (うち北九州市からの派遣職員 0人)

## II 平成23年度事業実績

お客様の安全、正確、快適、利便性の向上に努め、開業から28年目を迎えた当期は、平成24年3月25日に開業からの輸送人員が3億人に到達した。

東日本大震災の影響をあまり受けなかった九州経済への反動や九州新幹線開業等による北部九州圏の活性化等の影響もあり、輸送人員は好調に推移し前期と比べ増加した。

また、広告等雑収入の獲得にも努め、運輸収入、運輸雑収とも前期に比べ増収になった。

しかし、修繕費の増や設備更新の進捗による減価償却費の増により、営業費が大幅な増となり、最終的には更新による固定資産除却損も加えると当期純損益は14期ぶりの損失を計上することとなった。

当期の輸送人員は、1,120万人（前期比15万人、1.4%増）で、一日当りの輸送人員は、30,591人（前期比331人、1.1%増）となった。

定期外利用客は、小倉現地開催日数の減や競馬人気の低迷により競馬利用客が減少したものの、九州新幹線及びJR博多シティの開業や小倉駅周辺商業施設の博多対抗商戦等による活性化効果等による一過性の増により、623万人（前期比5万人、0.8%増）となった。

定期利用客は、小倉記念病院の小倉駅北口への移転開業等の効果により病院への通勤等の固定利用客が増え、497万人（前期比10万人、2.1%増）となった。

通勤定期客は、303万人（前期比5万人、1.7%増）となった。

通学定期客は、139万人（前期比2万人、1.4%増）となった。

シルバーパス客は、54万人（前期比3万人、6.4%増）となり、当期末有効枚数は774枚となった。

運輸収入は、輸送人員の増加に伴い、19億232万円（前期比1,830万円、1.0%増）となった。

運輸雑収については、ラッピング列車の新規獲得等による広告料の増や、たばこ自販機の売上増等による構内営業料の増等により、1億9,793万円（前期比2,039万円、11.5%増）となり、営業収益は、21億25万円（前期比3,869万円、1.9%増）となった。

営業費は、き電ケーブル張替等による修繕費の増加や、車両改造等大規模設備更新の進捗による減価償却費の増加により、21億5,179万円（前期比2億3,758万円、12.4%増）となり、当期の営業損益は、5,154万円の損失（前期比1億9,889万円、135.0%減）となった。

上記営業損益に営業外損益を加えた当期の経常損益については、3,363万円の利益（前期比2億521万円、85.9%減）となった。

上記経常損益に特別損失及び法人税等を差し引いた当期純損益は、車両改造更新等に伴う固定資産除却損の発生により、2,768万円の損失（前期比5,020万円、222.9%減）となった。

設備投資については、車両改造更新やATC/TD車上装置更新等を実施した。

### Ⅲ 平成23年度決算

#### 1 貸借対照表

平成24年3月31日現在（単位：円）

資 産 の 部		負債及び純資産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	3,718,183,924
流動資産	1,552,295,127	流動負債	736,581,270
現金及び預金	1,312,406,766	未払金	576,615,204
未収運賃	20,809,780	未払費用	6,650,107
未収金	10,489,540	未払法人税等	12,191,800
未収還付法人税等	13,405,744	未払消費税等	11,936,150
貯蔵品	194,489,693	預り金	6,165,302
前払費用	693,604	前受運賃	55,310,650
		前受収益	21,546,750
		賞与引当金	46,165,307
		固定負債	2,981,602,654
固定資産	15,276,096,515	長期借入金	1,300,000,000
軌道事業固定資産	15,216,314,305	退職給付引当金	284,310,600
建設仮勘定	59,745,000	預り敷金	2,559,000
投資その他の資産	164,085	預り保証金	2,700,000
貸倒引当金	▲126,875	再評価に係る繰延税金負債	1,392,033,054
		(純資産の部)	13,110,207,718
		資本金	3,000,000,000
		資本剰余金	6,871,521,775
		資本準備金	6,871,521,775
		利益剰余金	690,631,099
		繰越利益剰余金	690,631,099
		土地再評価差額金	2,548,054,844
資産合計	16,828,391,642	負債及び純資産合計	16,828,391,642

2 損益計算書

自 平成23年 4月 1日

至 平成24年 3月31日 (単位：円)

科 目	決 算	額
<b>経常損益の部</b>		
(営業損益の部)		
軌道事業		
営業収益	2,100,250,949	
営業費	2,151,787,035	
営業損失		51,536,086
軌道事業営業損失		51,536,086
(営業外損益の部)		
営業外収益		
受取利息	326,651	
雑収入	84,852,597	85,179,248
営業外費用		
雑支出	15,144	15,144
経常利益		33,628,018
<b>特別損益の部</b>		
特別損失		
固定資産除却損	55,416,270	55,416,270
税引前当期純損失		21,788,252
法人税、住民税及び事業税	5,893,943	5,893,943
当期純損失		27,682,195

## IV 平成24年度事業計画

### 《平成24年度の事業計画概要》

平成23年度の決算については、運輸収入及び運輸雑収ともに増加し営業収益は増加したが、修繕費や減価償却費等の営業費の増加により当期純損益は14年ぶりに損失に転じた。

輸送人員について、平成23年度は九州新幹線及びJR博多シティの開業や小倉駅周辺商業施設の活性化等の一過性要因や、小倉記念病院の小倉駅北口への移転開業効果等により微増となったが、平成24年度は小倉現地競馬の開催日数の減や競馬人気の低迷により競馬利用客の減少が見込まれており、将来的なトレンドとしては、沿線人口動態や昨今の厳しい社会情勢からすると減少していくものと思われる。

また、平成23年度の大規模設備更新事業については、車両改造の3編成目及びATC/TD車上装置更新を完成させたが、今後も輸送の安全性と利便性を確保するためには大規模設備更新の継続実施や計画的な維持修繕が不可欠であり、平成24年度についても、車両改造の4編成目及び平和通駅ATC/TD装置更新等の設備更新や電力ケーブル取替等の修繕業務を予定しており、設備更新に伴う減価償却費等の増加や修繕費の増加により、さらに収支が悪化し資金計画も非常に厳しくなると見込まれる。

については、現在の厳しい経営状況に対応するため、運輸収入においては旅客誘致活動、チャーター便の強化等、運輸雑収においては車体ラッピング等広告販売促進、パーク&ライドの積極誘致等、積極的に下記の増収増客対策を図っていく。

一方、業務の改善や効率化等による人件費や修繕費等の経費削減に努め、下記の経費削減対策を図り、経営の安定化に努める。

公共交通機関としてのモノレールの運営にあたっては、輸送の安全性を第一に、今後も引き続き定時性・利便性・サービスの向上を図るとともに、市民に愛されるモノレールを目指すべくお客様第一主義の実践に努める。

#### (1) 増収増客対策

- ① 運輸収入（旅客誘致活動、チャーター便の強化、企画きっぷの発売）
- ② 広告（車体ラッピング等広告販売の促進）
- ③ 構内営業料（コインロッカー機種の見直し）
- ④ 雑入（パーク&ライドの積極誘致、基地の有効活用）

#### (2) 経費削減対策

- ① 人件費（嘱託社員や臨時社員の活用、業務時間の見直し、時間外手当の削減）
- ② 修繕費（作業の効率化）
- ③ 委託料（広告製作仕様の検討）

#### (3) その他

- ① 市制50周年記念事業とのタイアップ企画

## V 平成24年度予算

### 1 予定損益計算書

自 平成24年 4月 1日

至 平成25年 3月31日 (単位：千円)

科 目	予 算	額
<b>経常損益の部</b>		
(営業損益の部)		
軌道事業		
営業収益	2,036,028	
営業費	2,147,331	
営業損失		111,303
軌道事業営業損失		111,303
(営業外損益の部)		
営業外収益		
雑収入	92,927	92,927
経常損失		18,376
<b>特別損益の部</b>		
特別損失		
固定資産除却損	60,281	60,281
税引前当期純損失		78,657
法人税、住民税及び事業税	4,971	4,971
当期純損失		83,628

## VI 役員名簿

平成24年7月1日現在

役職名	氏名	備考
代表取締役社長	岩科健一	株式会社ニューシーサイドスパ代表取締役社長〔兼任〕
代表取締役専務	廣田誠秀	
取締役	石丸美奈子	財団法人北九州市芸術文化振興財団理事〔兼任〕
常勤監査役	疋田慶一	地方公共団体金融機構理事〔兼任〕
監査役	高島利行	北九州市建築都市局総務部長〔兼任〕
〃	白川祐治	株式会社福岡銀行取締役常務執行役員北九州本部長〔兼任〕